



農業担当の丸山隊員が専門分野である農業にまつわる風土や文化、その他諸々について語ります

地域おこし新聞

木祖村地域おこし協力隊員による

「斜面の畑とリビングマルチ」

昨年までススキ原だった野中原の斜面が畑となって今、スイートコーンが順次育ってきております。斜面、と申しましたがやはり気にかかるのは雨によって土と一緒に肥料成分が下にばかり流れてしまうことですよね。植え穴近傍はマルチを張ればなんとかかなりそうですが、問題は畝間です。そろそろとうもろこしの根が畝間に張り出してくる時期ですし、追肥もそれを見越して畝間に施します。そこで、上記の土壌侵食及びに地温の上がりすぎ、酷暑期の乾燥、他の



トウモロコシと光と肥料を競合してしまう雑草の発生…これらを緩和するために畝間に白クローバーの種を条蒔きしてみました。リビングマルチ、カバークロップとも最近呼ばれるやり方です。決して草をほったらかしている訳ではないのです。(丸山)

6 月号

モノ創りの村を志し、木工振興担当栗葉の

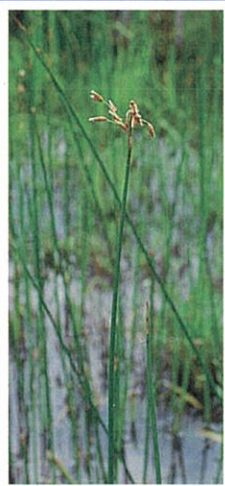
続

木育ひとりごと

相変わらず自身の木育についてしゃべって行きます。今年から共同（協力隊丸山と）で挑戦しよう

と思っている、**野中でのフトイ栽培**。フトイとは“い草”が少し太く少し長いもので、大体 2m くらいの草で**縄や円座、民芸椅子の座面として編む材料**になってたりします。このフトイを小スペースの田んぼで実験的に栽培して収穫量や母数を増やしたり越冬の具合や病気や虫の被害等々、木祖村で現実的に栽培、販売流通が可能なのかを利用者製造業者含めて検証しようと思っています。

その昔は**“ガマ”が利用されこの地域でも座網をする方がいた**こともわかっているので素材作りの一つとしてだけではなく**伝統産業の新しい形**として復活できることも目指して取り組んでいこうと思いますので乞うご期待お願いします。(栗葉)



木祖村地域おこし協力隊

@ kisomura_okoshi

@ kisomura_okoshi

@ kisomura.okoshi

お問い合わせは上記 SNS や、下記メールへどうぞ！

kisomura.okoshi@gmail.com

kisomuradio.com

お六の櫛のエトセトラ

お六櫛の材料であるミネバリについて紹介します。別名オノオレカンバ（斧折れカンバ）は標高 500m 以上の山端に張る樹木で、他の櫛材のイス、ツゲとは異なり木祖村も分布範囲に含まれている樹木になります。

現在、ミネバリ材はとても希少で、色々なところと連携して情報を集めています。また、木祖村には天然木は見られず、鳥居峠やミネバリの森などに植樹されています。去年、私もミネバリの森に視察、整備をしてきました。こういった活動が実を結ぶまでに 50 年以上かかるので、続けていくこと、伝えていくこと、困難な道だなぁと感じています。

ミネバリ材は櫛だけでなくボールペンや箸などにも使われることがあるようなので、そういったものを作っている人たちも巻き込んで伝えていけたらいいなぁと考えています。いつの日か木祖村産のミネバリでお六櫛を挽きたいと思っています。(井上)

